

日本技術者教育認定基準(JABEE 基準)と京都大学工学部建築学科の対応

JABEE とは

「JABEE」とは Japan Accreditation Board for Engineering Education の略で、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。日本語名称は「日本技術者教育認定機構」ですが、英語の略称から「ジャビー」と呼ばれるほうが一般的です。大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかをこの JABEE が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことを「日本技術者教育認定制度」といいます。京都大学工学部建築学科では、この認定を受けるべく、学部での教育プログラムの整備を現在進めています。

京都大学工学部建築学科が、どのような理由から自らの教育プログラムに対して「JABEE」という外部機関の認定を受けようとしているのかを理解してもらうために、まずは JABEE が設立された背景について、JABEE のホームページ(<http://www.jabee.org/>)を参考としながら簡単に説明してみましょう。

1995年のWTO(世界貿易機関)の誕生とともに、貿易自由化の対象がモノからサービスに拡大されました。サービスの担い手は人間、とくに専門能力をもつ会計士・技術者などの専門職ですから、専門職の同等性、ひいてはその基本となる専門教育の同等性が現実の問題としてクローズアップされるようになりました。同年11月に大阪で開催されたAPEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議で、有資格技術者の域内流動性を促進することが決議され、これが決定的な起爆剤となって、わが国でもシステム互換性の検討が避けられなくなりました。このことが一つの契機になり、日本における工学教育と世界で通用する engineering education との乖離を少なくして、高等教育機関の卒業生が自信を持って世界に飛び出せるようにしたいという技術系学協会の願いから、JABEE が生まれました。

では、このような背景のもとに設立された JABEE が、認定を受けようとする高等教育機関の教育プログラムに対してどのような要求を出しているのか、逆にいうと、どのような教育プログラムでなければ JABEE の認定を受けることができないのか、その必要項目をやはり JABEE のホームページを参考としながら列挙してみましょう。

大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。

教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。

教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。

- a) 学生や就職先企業など顧客層のニーズを取り入れる方法
- b) 教育活動を観察して教育成果を測定し分析する方法 (Assessment)
- c) 教育プログラムが教育目標を達成しているか否かを判断する方法 (Evaluation)
- d) 効果的な自己点検・教育改善システム(組織と活動)

入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

つまり、JABEE が認定を受けようとする高等教育機関の教育プログラムに対して要求しているのは、「教育プログラムによって教育を受けた結果として達成される学生のレベル」ではなく、「教育プログラムが、自

ら設定した教育目標を達成できるようなものとなっていること」なのです。このことは次の2つの大きな意味を持っています。一つは、JABEE の認定を受けることによって大学(学部)の個性が失われるわけではなく、むしろ、今までよりも一層、他の高等教育機関との違いが際立つような教育プログラムとなることで(そうしなければ JABEE の認定は受けられません)、もう一つは、学生の諸君は履修要覧に明示された必要単位数を、シラバスに明示された各科目に対する評価基準を満たしてクリアすることで、自動的に、国際的に通用する「JABEE 認定教育プログラムを受けた技術者(engineer)」を名乗ることができることです。

京都大学工学部建築学科の対応

1920年の創設以来、京都大学工学部建築学科は、建築に関わる学術・芸術・技術の教育・研究において輝かしい成果を挙げるとともに、そうそうたる先輩たちを輩出してきました。本建築学科は、これまで築いてきた長年の伝統を守りつつ、これからも教育・研究に専心するものですが、同時に JABEE 審査等に見られる近年の動きに的確に対応しうる体制を整えることが重要であると考えます。そこで80年有余にわたる京都大学工学部建築学科の歴史を継承しつつ、そして21世紀における建築界のリーダーたる素養をもつ専門家を養成することを目的として、「京都大学建築学科の学習・教育目標」(別添資料参照)を設定し、これらの目標を達成するための教育体制の継続的な改善に精力的に取り組むことにしました。

学生諸君においても、伝統ある京都大学工学部建築学科の一員として、この基本方針に対する一層の理解と協力を期待します。

2005/01/14

京都大学工学部建築学科